

オープン カレッジ

2019年3月に世界最大で最新のクルーズ客船であるシンフォニー・オブ・ザ・シーズ（全長362m、22・8万t、17デッキ、乗客494人、乗員2175人、18年3月就航）のマイアミ港発、ホンジュラスのロatan、メキシコのコスタ・マヤとコスマル、バハマのナツソーラーを巡るカリブ海クルーズに乗船した。

現在のクルーズ客船は移動手段というよりもレジャー施設としての役割が大きく、船体を巨大化して複数のプールやジャグジーなどの施設を設け、さらにスリ

日本も市場拡大の可能性

ルあるアトラクションや迫力あるショーを楽しむ「海のテーマパーク」となつている。シンフォニー・オブ・ザ・シーズにはプールのスライ

も充実しており、リピーターや船内で次回の申込みを

さまである。



福山文学園大学
現代マネジメント学部准教授
水野 英雄



(写真はメキシコのコスタ・マヤに寄港したシンフォニー・オブ・ザ・シーズ)

みずの・ひでお
貿易政策、経済政策。名古屋大学
大学院経済学研究科博士課程後期
課程退学。1968年生まれ。

ダードはもちろん、空中を口一ブで渡る16階から6階へのスライダーといったスケールの大きなアトラクションがある。また、船尾のプール付きシアターでのアク

アショウは、約5階の高さからの迫力ある飛び込みや、ワイヤーアクションによる空中遊泳、綱渡りが何度も繰り返される。

船体の巨大化により船内には、高級スイートルームから内側窓なしまでさまざまな客室があり、1室単位で購入することから子どもは無料で、安い部屋であれば1人あたり1泊1万円程度である。その上、食事付きショーやアトラクションも含まれていることから、家族で楽しむ手軽なレジャーとなつている。割引制度

日本では「豪華クルーズ客船」のイメージが強かつたが、外国客船の寄港増加でテレビをはじめマスコミで紹介される機会が増えたことにより、シンフォニーオブ・ザ・シーズのようなカジユアルクラスの人気が高まっている。ドレスアップして食事をしている人もいればラフな格好で食事をしている人もいて、楽しみ方はさまざまである。

クルーズ客船は1週間程度の長期の旅行であることがネットワークであるが、ワークライフバランスの見直しや年次有給休暇の取得義務付けで長期休暇が取りやすくなり、気軽なレジャーであることなどが浸透して「乗らず嫌い」が解消されれば市場拡大の好機である。

米国の最新クルーズ客船

すれば数百ドル程度の割引になら。

ただし、飲料やインター

ネットなどの追加のサービスは有料であり、寄港地でのオプショナルツアーや船

内のブランド品の販売、カジノやエステといった

乗船料を安くしてそれ以外で稼ぐビジネスモデルになつている。寄港地では8時

間程度と限られた寄港時間

時間がどれようクルーズ客船の乗客はパスポートの提示などの入国審査が必要である。